

第 45 回宇都宮市民芸術祭 工芸部門 審査総評

第 45 回宇都宮市民芸術祭の工芸部門は、前回より若干多い 33 点の応募があり、入選 31 点、選外 2 点となりました。そのうち入賞作品は 11 点。

市民芸術祭賞は緻密な手仕事を確かな技術によって制作された竹工芸の「網代編花籠」が多くの支持を得て選ばれ、また準市民芸術祭賞には独自性溢れる木工芸作品の「トキシカラ カニス」と、瓢箪型の難しい造形に取り組みられた竹工芸の「松葉編花籠」が受賞しました。そして奨励賞 5 点、秀作 3 点を選出。

作品分野は、陶芸、人形、ふくべ、布花、切り絵等の他に、これまでにない吹きガラスの参加があったのは嬉しいことでした。また、高校生・大学生等、若年層の参加があり、自由でフレッシュな感性に好感が持てました。今後もこの若者達が意欲的に制作活動を継続して、アート層を厚くしてくれることを切に望みます。

審査時に多くの時間を割いたのは、広く裾野を広げたい思いはあるものの、制作者に工芸の趣旨をしつかり認識していただく必要性でした。

- ・ 既成のキットなどを使わないオリジナルであるか
- ・ 作品意図が見えるか
- ・ 文字での表記を排し、思いを造形で表現すること 等

審査員から重要な指摘がありました。

コロナ禍収束後、通常の生活が戻ってきた折、創作活動も今後活発になってくると思われます。伝統に根差した高度な工芸作品はもちろんのこと、新たな素材を用いた創作アート等、既成概念にとらわれない多様な表現作品を期待します。

審査長 川元 由美子